

## 今月のことば

何を  
しでかすか  
わかからない  
そんな私

(小池秀章『現代のことばで味わう 日めくり歎異抄』より)

龍谷大学非常勤講師  
小池秀章 こいけひであき

「私は、コロナで死ぬことより、感染した後いろいろな言われるんじゃないかということが心配です。(略)ひどいことを言われたら傷つくし、悲しくなるから言わないでいようと思うけど、そんなことを言ってしまうかもしれません。正直、どんなふうになるのか全然わからないです。」

(『作文と教育』2021年2・3月号より)

これは、小学5年生が書いた作文の一部です。新型コロナウイルス感染症そのものよりも、感染した人に対する誹謗中傷の方が、心配だということです。その気持ちは、とてもよく分かります。しかし、この作文の中で一番心に残ったのは、後半の「ひどいことを言わないでいようと思うけど、言ってしまうかもしれない。正直、どんなふうになるのか全然わからない(要約)」という部分でした。とても正直な思いだと感じました。

『歎異抄』第十三条に、「しかるべき縁があれば、どのような行ないもするものである。(さるべき業縁ごうえんのもよほさば、いかなるふるまひもすべし)」とあります。

み教えを聞けば聞くほど、危うい私に気づかされます。危うい私に気づかされれば気づかされるほど、ますますみ教えを聞かなければならないという思いが湧いてきます。

私を「決して見捨てない」とはたらき続けてくださっている阿弥陀さま。そのはたらきの中で、常に私の在り方を問い続けていく。そんな人生を送らせていただきたいと思えます。

合掌